

羅針盤			点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケートなど	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1豊かな人間性、想像力を育成する教育活動を行っていますか。	①自ら積極的にあいさつをしていると自己評価している生徒が90%以上である。	A	A/A	A	委員会や生徒会が中心となり活動している朝の挨拶運動や、職員が積極的にあいさつをするようにすることで、元気にあいさつできる生徒が増えている。より多くの生徒が積極的にあいさつをできるようにしていくことを今後の課題とし、活動を継続していく。	他者のため、社会のために、マイノリティーの視点も忘れずに考え行動できる人間になるためには、当たり前のことを行って行くことが大切で、その意味で挨拶や清掃活動などの日常生活における何気ないことに積極的に取り組める、そんな奉仕的な精神を持った子どもたちを育てることが、結果的に中央中等教育学校が目指す「World Citizen (地球市民)」の育成につながるのだと考える。リーダーだけでなくリーダーを補佐できる資質を育み、出来ないことに眼を向けるのではなく、出来ることや可能性に眼を向けられる人間の育成に力をいれてほしい。
		②意欲的に清掃活動に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	B	B/B	B	清掃用具のチェックを行い、年度末に不備のある清掃用具の交換などを行ったが、必要数を確保できなかったり、消耗品の不足などが見られた。今後の課題は、年に数回の定期的な点検を行い、消耗品などの在庫を充実させ、清掃への意識を高めることである。	
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	A	A/A	A	全学年実施している朝の奉仕活動などを通して生活(学習)環境を整備し、生徒が自身の可能性を広げることができる環境をつくっていく。今後も生活(学習)環境の整備推進と同時に本校生徒(現役生・卒業生)の頑張り、善行を積極的に紹介をして母校に誇りを持っていくように努めている。	
	2国際的なコミュニケーション能力を育成する教育活動を行っていますか。	④英語や外国文化に興味を持っている生徒が90%以上である。	A	A/A	A	各習得段階において、指導場面に応じた多様で適切な教材を使用しつつ、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、英語ニュースを聞いたり英字新聞を読み感想を伝え合うといった活動などを通して、英語・外国文化・世界情勢について、興味関心が深まっている。真の意味での国際コミュニケーション能力の育成に向けて、実際の場面で即興的かつ創造的に表現出来る能力、グローバルスタンダードにかなう論理構成力、プレゼン能力、意思伝達力などの育成に、前期・後期通して一貫して取り組んでいく。各発達段階ごとの具体的な目標や指導方法を検討していく。	
		⑤イングリッシュキャンプやスピーチコンテストなどの英語科行事や、海外修学旅行に満足している生徒が85%以上である。	A	A/B	A	前期・後期を通じ英語関連の行事と関連つけた授業を通して、4技能に加えて発表能力を向上させる活動をより多く行い、自らの考えを伝え合う力を養いつつ、各行事に対する意欲が高まってきている。今後は、各行事の振り返りを該当学年だけでなく科として検討し前期・後期通して一貫した活動として改善・継続することが重要である。	
		⑥全ての生徒が、学校行事や授業などで我が国や世界の国々の文化・伝統に触れる経験をしている。	A	A/A	A	FEWC7プログラムを中心に前期から6年間を見据えて計画的に、各教科、科目の授業、行事などで日本及び世界の文化・伝統に触れる学習を行っている。9月に行われているグローバルウィーク、3年を1クールとして群響、演劇、日本古典芸能といった内容を立案している芸術鑑賞教室なども、生徒の国際的な視野を身に付けるために効果的であるが、1年生から6年生の発達段階の違いを考えると、その内容や運営に更なる工夫が必要である。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4基礎・基本の確実な理解を図る指導を徹底していますか。	⑦授業内容を理解できていると感じている生徒が80%以上である。	A	A/A	A	協働学習とコロナ禍に取り入れられたICTを用いた授業が定着し、授業研究・FEWC推進部主導で行われている職員研修と公開研究授業、授業研究会などによって、全ての職員の授業スキルが向上していることは間違いない。結果として、生徒一人一人授業に対する理解度、基礎基本の力を把握し、それに合わせた授業改善も進んでいる。今後は中間考査を廃止したことによる生徒の変化や個別最適化学習の実践などに着目して、本校が目指す生徒像の育成に向けて、生徒、教師が生き生きと取り組める授業を目指していきたい。	年2回、授業評価としてルーブリックをもとにした授業アンケート継続実施し、その結果をカリキュラムマップの見直しに活用しているのがよい。生徒一人ひとりが自分に身に付いたスキル・能力がどういふものなのかを評価することで、先生の日頃の授業、生徒の学習姿勢の向上が期待できる。少人数授業、習熟度別授業の利点を再検討し、生徒の「生きる力」、課題解決能力の醸成に努めてもらいたい。
		⑧少人数指導に満足している生徒が85%以上である。	A	A/A	A	少人数授業の形骸化を防止し、少人数指導の長所をより伸ばすために、少人数指導でしかできない取組について見直しを行った。授業の形態に工夫を加えることで、生徒の充実感を高め、個別最適化学習の実践、課題発見、課題解決能力の伸長を心がけたい。	
		⑨学習動機が明確な生徒が85%以上である。	A	B/A	A	二者面談、三者面談を通じて、生徒一人ひとりに対して適切な助言をすることができた。学年毎に、何をすべきかを改めて考えさせる工夫をしていきたい。	
	5生徒の学習意欲を喚起する指導が充実していますか。	⑩家庭学習の習慣が身に付いている生徒が80%以上である。	B	C/A	B	将来の自分、卒業後の自分を想像し、今それをやるのがなぜ必要なのかを意識させるとともに、個別最適化学習の実現を図りたい。	
		⑪すべての教師が、「探究的で創造的な学習」、「指導と評価の一体化」、「ICTの活用」などのテーマを設定し、授業改善に取り組んでいる。	A	A	A	今年度は新たに「学習の個性化を伴った探究的で創造的な学習の導入」をテーマとし、計3回の公開研究授業研修を実施(計12名の教員の研究授業を公開)した。さらに12月に実施した第2回FEWC職員研修では、学習の個性化の分野におけるパイオニアとも言える講師による「学習の個性化を実現する授業の始め方」というテーマでの講義を実施した。また、先進校視察研修(かえつ有明中・高など)学校を研究部職員5名で訪問)を行い、PBLや授業改善のための職員研修の在り方について有意義な学びを得た。	
		⑫すべての教師が研究授業を行い、授業参観を年2回以上実施している。	A	A	A	計3回の公開研究授業及び授業研究会を実施することにより「学習の個性化を伴った探究的で創造的な学習の導入」について、教員同士の学び合いによる充実した研修会を行うことができた。来年度も引き続き研修テーマに関する情報提供と教職員の話し合いによる学びを活性化させ、教職員が研修テーマに沿って各自の授業を日々改善できるよう支援していきたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7生徒が良好な人間関係を築けるよう組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬教師との信頼関係を築けていると感じている生徒が80%以上である。	A	A/A	A	個人面談やアンケート、日頃の生活を通じて得た生徒情報を全職員で共有し、それぞれの生徒に適切なタイミングで支援・指導を行っている。引き続き、組織的対応を中心としたきめ細かな支援・指導ができるよう、配慮していく。	生徒会本部役員と生徒指導担当の職員で校則の見直し、改定に取り組んでいる点やLGBTの生徒への配慮として女子の制服にズボンを導入している点、通級指導を積極的に取り入れている点など、一人ひとりの違いを認める姿勢、マイノリティーへの配慮が感じられる。こうした学校の姿勢が、生徒一人ひとりの人間性の育成につながるよう更なる工夫をお願いしたい。
		⑭クラスの人間関係が良好だと感じている生徒が80%以上である。	A	A/A	A	行事や学校生活の中で、お互いが助け合えるような声かけに努めている。また、多様な価値観があることや他者を認めてあげることの重要性を伝えている。今後もトラブルの未然防止に努め、SHRや学年集会での説教指導などを通して先手を打つ生徒指導を心がけていく。	
		⑮自分の健康について意識している生徒が80%以上である。	A	B/A	A	コロナ対策で行っていた手指消毒の習慣化や、自ら判断してマスクの着用を行うなど、感染症対策を意識している生徒が多い。感染症以外の健康管理について、学校保健委員会で調査・研究を行い、取り組んだ内容についてクラスルームや保健だよりなどで生徒に伝えていきたい。	
	8生徒は健全で健康的な学校生活を送っていますか。	⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。	A	A/A	A	生徒の自主的、自発的な参加により行われる活動に75%以上の生徒が参加していることは、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養など、学校教育が目指す資質・能力の育成につながるものと考えられる。今後は学習指導要領の示すとおり、地域社会との連携をいかに効率よく進めていくかが、持続可能な部活動運営上の課題となるであろう。	
		⑰いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	A	A/A	A	いじめの定義、いじめ防止対策推進法、国の基本方針などについて周知徹底し、いじめは「人の尊厳にかかわること」「人として絶対に許されない」「被害者は最後まで守りぬく」という基本姿勢を持ち、職員の抱え込みのないよう組織的な対応をすることができた。引き続き生徒の情報共有を徹底し、迅速かつ的確な対応をとれるようにしていく。	
		⑱子どもの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	B	B/A	B	三者面談にあたって、適性検査などのデータを活用した。今後は、さまざまな機会を捉えて、親子間で意見交換をするように工夫していきたい。	
9各学年の特性に応じた計画的な進路指導を行っていますか。	10生徒が将来の進路を選択するのに役立つ適切な情報や場を提供していますか。	⑲<前期課程>自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が70%以上である。	A	A/A	A	進路講演会を実施し、生徒自身に自分の進路を考える機会を提供した。キャリア教育については、今後も特別活動部による年間計画およびFEWCにビルト・インする形で実施していきたい。	文系の大学に比較的新しい学部学科が出来ている中において、中央中等の6年生の進路傾向は、昔ながらの堅調なものだと聞き、新しいことに取り組みながらも、大学を選ぶときには学問の本質を大切にしていることがわかった。だからこそ卒業後は多様な活躍することが出来るのだろう。ブランドの大学を選ぶ単なる進学校ではなく、一人ひとりが自分の将来像実現のために進路選択をしている点が重要だ。前期(中学生)のインターンシップ活動などに力を入れ、よりキャリア意識が向上すれば、こうした進路選択が揺るぎないものになると思う。
		⑳<後期課程>自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が80%以上である。	A	A/A	A	文理選択、科目選択、志望校選択などの場面における個別指導を充実させた。今後は、本校にとって望ましい高次連携のあり方を模索したい。	
		㉑子どもの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	B	B/A	B	学年毎に進路講演会を実施し、本校生徒・保護者に対して必要な進路情報を発信している。また、進路関連雑誌などを学年に合わせて、必要な時期に配布している。さまざまな情報誌の中から、よりよいものを求めて精選していく。	
IV 開かれた学校づくりに努めていますか。	11積極的な情報発信に努めていますか。	㉒学校からの進路情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	A	C/A	B	生徒の発達段階にあわせ、各学年のニーズに応じた行事を行った。後期生に対しては、難関大セミナーを紹介するなど、各学年の進路環境に応じた最新の情報を、引き続き提供していく。	県内に私立の中等教育学校ができた、少子化が進んだ影響からか、志願者が減少傾向にあると聞いたが、県内唯一の中等教育学校に興味を持っている県民、受検を考えている子どもたちは、まだまだいると思う。そうした人たちに向けて、正確な情報をしっかりと届ける手段を考えたことが必要で、Webページ上の情報発信はもちろんだが、対面でもできる取組、たとえば施設や授業の公開などについても検討してほしい。
		㉓Webページの必要箇所を月3回以上更新する。	A	B/A	A	DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の方針に合わせて、Webページの見直しを行い、保健だよりや図書だより、学年通信などをWebページ上に掲載したり、「れんらくアプリ」を使っての配信、フォームを使用しての出席確認を実施するなど、情報の正確かつ速やかな提供、回収を行った。B4版の用紙を廃止するなどペーパーレス化も推進し、Webページの更新もタイムリーに実施した。保護者などの評価では、更なるWebページの更新を求めている意見もあるので、更新の頻度については慎重に検討していきたい。	
		㉔学校説明会や公開授業、授業参観をそれぞれ年1回以上実施する。	A	A/A	A	6月と11月に決められた3日間、自由に参観できる「授業参観週間」を今年も実施し、保護者からも好評なこの形が定着した。学校説明会は今年も申込み制で実施し、10月の6年生を対象としたオープンスクールも実施することができた。校地内に十分な駐車スペースが確保できないので、今後もこの形での実施が妥当と思われる。小学校5年生以下の児童、保護者に授業を公開する機会を早急に設け、開かれた学校づくりにさらに進めていきたい。	
	12保護者や地域などとの連携・協力を努めていますか。	㉕学校と家庭との連絡が緊密に行われていると感じている保護者が80%以上である。	A	A/A	A	紙の配布物より、連絡アプリでPDF・Google Drive/Formsを利用してなるべく直接保護者に連絡ができるように続けた。	
		㉖学校は、生徒・保護者による地域貢献活動を年1回以上行っている。	A	B/C	B	PTA学校周辺美化活動で多くの保護者・在校生が参加できた。引き続きこの行事は秋で実施することを検討したい。	
		㉗子どもが地域で活躍していると感じている保護者が80%以上である。	A	A/A	A	公開研究授業や職員研修の取り組みなどを通じ、ICTを用いた学習の個性化を伴った創造的で探究的な授業を試行錯誤しながら模索する教職員の姿が多みられるようになってきた。来年度もこの方向性での努力を継続するとともに、指導の個別最適化のためのAIの活用方法についても研究し、教職員を支援していきたい。	
V 教育のデジタル化に努めていますか。	13ICTを活用した授業などを実践していますか。	㉘授業内容を理解できていると感じている生徒が80%以上である。	A	A/A	A	公開研究授業や職員研修の取り組みなどを通じ、ICTを用いた学習の個性化を伴った創造的で探究的な授業を試行錯誤しながら模索する教職員の姿が多みられるようになってきた。来年度もこの方向性での努力を継続するとともに、指導の個別最適化のためのAIの活用方法についても研究し、教職員を支援していきたい。	研究発表の様子を見せてもらっただけでも、生徒たちがICT機器を使いこなしながら、様々な情報を活用していることがわかった。当然指導はしてもらっていると思うが、正しい情報の入手方法や著作権に対する正しい知識などの社会に出てから必要不可欠な内容について、今後もしっかりと指導をお願いしたい。
		14ICTを活用した業務改善を行っていますか。	A	A	A	ICT機器を利用して欠席連絡や連絡ツールとして活用している。また、朝の打ち合わせで活用する掲示板を県統一のシステムに移行することで業務の効率化を行い、出張、年休、出勤簿などのペーパーレス化を行った。今後は学籍管理、生徒管理、保健管理などを県統一システムにスムーズに移行することが課題である。	
VI 生徒の安全確保を図っていますか。	15生徒の安全に対する意識喚起に努めていますか。	㉙交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	A	A/A	A	日頃より与えられたかけがえのない命について考え、自他共に命を守るための指導を行なった。また、本校生徒の現状を伝えたり、交通ルールやマナーについて指導をしたり、交通事故未然防止活動を実施した。ヘルメット着用を校則とし、全校生徒で着用することができている。	防災訓練の1回を不審者対応で実施したことは大いに意味がある。相次ぐ通り魔事件や高齢者が運転する車両も増え、生徒自身に過失がなくとも、事件事故に巻き込まれる可能性が高くなっている今、最後は自分の命は自分で守るという自己防衛の意識をしっかりと育ててほしい。そうした指導が最終的に自他を大切にできる人間の育成につながる。
		16施設・設備の安全管理を徹底していますか。	㉚学校の施設・設備が整備され、安全であると感じている生徒・保護者が80%以上である。	A	B/A	A	